



会社情報・株主メモ

(平成29年9月30日現在)

会社概要	
社 名（商 号）	株式会社 木曽路
設 立 年 月 日	昭和27年9月30日
本 社	名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
資 本 金	100億56百万円
従 業 員 数	1,262名
主 な 事 業 内 容	料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店を営業
東 京 本 部	東京都港区芝三丁目43番15号 芝信三田ビル4F
大 阪 本 部	大阪府吹田市江坂町一丁目13番41号 SRビル江坂3F
名 古 屋 工 場	愛知県大府市一屋町三丁目36番地

株式の状況	
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,913,889株 (うち自己株式 78,996株)
株主数	20,410名

役員一覧	
代表取締役会長兼社長	吉 江 源 之
専 務 取 締 役	野 克 典
常 務 取 締 役	青 野 康 徳
取 締 役	仲 沢 栄 一
取 締 役	松 岡 利 朗
取 締 役	大 橋 浩 浩
社 外 取 締 役	松 井 常 芳
社 外 取 締 役	伊 藤 邦 昭
常 勤 監 査 役	鈴 木 敏 道
社 外 監 査 役	熊 田 登 与 子
社 外 監 査 役	平 野 善 得

IRカレンダー	
平成29年 7月21日	名証IRエキスポ2017 出展
平成29年 7月22日	
平成29年 7月28日	平成30年3月期 第1四半期決算発表
平成29年10月27日	平成30年3月期 第2四半期決算発表
平成29年11月15日	第2四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）
平成30年 1月下旬	平成30年3月期 第3四半期決算発表【予定】
平成30年 4月下旬	平成30年3月期 決算発表【予定】
平成30年 5月中旬	決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）【予定】
平成30年 6月下旬	第69回定時株主総会【予定】

■株主優待制度のご案内	
毎年3月31日及び9月30日現在の100株以上ご所有の株主の皆様に、 右記のように「株主ご優待券」を6月下旬と11月下旬にご送付致します。	
100株以上 500株未満	半期 1,600円相当（年間 3,200円相当）
500株以上1,000株未満	半期 8,000円相当（年間16,000円相当）
1,000株以上	半期 16,000円相当（年間32,000円相当）

株主メモ		お知らせ	
事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日まで	■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について	
定 時 株 主 総 会	6月下旬	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。	
基 準 日	定時株主総会の議決権 3月31日	なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
株主名簿管理人 特別口座管理人 郵便物送付先	期末配当金 3月31日	■未払配当金の支払いについて	
	中間配当金 9月30日	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。	
	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号	■「配当金計算書」について	
三井住友信託銀行株式会社		配当金支払の際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。	
(電 話 照 会 先)		* 確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。	
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店で行っております。			
公 告 掲 載 新 聞			
日本経済新聞			

株式会社木曽路
〒466-8507
名古屋市昭和区白金三丁目18番13号
TEL 052-872-1811（代）

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



株式会社木曽路

証券コード：8160

第69期 中間株主通信

平成29年4月1日～平成29年9月30日



ごあいさつ

お客様からいただいた信頼をもとに顧客指向経営を徹底し、
企業価値を高め社会的責任を担っていきます。

外食企業を取り巻く経営環境は益々厳しさを増しています。少子・高齢化を背景とした人口減少による外食市場規模の縮小や労働力の不足、原材料やエネルギーコストの上昇、環境への配慮と保護、お客様や従業員の安全性確保、高度情報化への対応、自然災害や情報漏洩など様々なリスクへの対応が必要です。また、消費者の食意識が成熟することにより嗜好やニーズの多様化が一層進み、価値指向、健康指向、安全指向は一段と強まっています。

このような環境変化の中で当社は、「よりおいしい料理をお値打ちに真心を込めたサービスで提供し、多くの人々に外食の楽しさを感じていただく」という基本理念を当社の優位性として磨き上げ、新たなフードビジネスモデルの構築に邁進します。そのために当社は、企業倫理・法令遵守の課題に真摯に取り組むのはもちろんのこと、全社を挙げて経営・調理・接客の各分野の能力向上に努め、新商品開発や新事業・新業態への進出、新技術の活用などに不断に挑戦し業績の伸展と企業価値の向上を追求します。また、食の安全性確保や環境保護等の課題に取り組む社会的責任を全うする方針です。

木曽路はここに企業としての存在意義を見出し、未来を拓いていきます。

代表取締役会長兼社長

吉江源之



事業報告



当中間期の経営成績の概況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益の増加や雇用環境の改善などから緩やかな回復基調で推移しました。その一方で可処分所得の伸び悩みや物価上昇懸念などから節約志向の持続、また、国内外の政治経済動向の不透明感など、依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、円安や物流コストの上昇などによる原材料価格の上昇や人手不足による人件費の増加、また、お客様の嗜好の多様化や食の安全・安心への対応など依然厳しい経営環境で推移しております。

このような経営環境の中で当社は、マーケティングによりお客様の嗜好や期待を把握し、強みである商品力及び接客力を強化するとともに、原材料の仕入から消耗品などの購入の見直しを継続しました。また、営業時間の短縮、勤務シフトの見直しや機械化（IT化）を進め、生産性の向上とともに働きやすい職場づくりに努めました。

店舗展開、改築・改装につきましては、1店舗の新規出店、1店舗の退店を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は163店舗（前年同期比 1店舗減少）となりました。

営業面では、歓送迎会の予約獲得、当社の強みであるハレの日需要の取り込みを強化するとともに、多様化するお客様ニーズにお応えするため料理の品質向上やメニューの見直しに取り組みました。また、付加価

値の高い旬の食材を使用した料理の販売とともに、接客サービスの充実に努めました。しかしながら、木曽路部門において、昨年実施した「しゃぶしゃぶ祭り」を中止したこともあり若干の減収となりました。

費用面では、食材やメニューの見直し、ロス管理により原価率を改善し、出退勤時間・人員配置など勤務シフトの見直しにより人件費率が低下しました。また、広告・販促方法の見直しや消耗品などの購入見直しを継続し、効率化、最適化に努めました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は197億26百万円、営業損益は3億7百万円の損失、経常損益は2億73百万円の損失、四半期純損益は2億56百万円の損失を計上しました。



通期の見通し

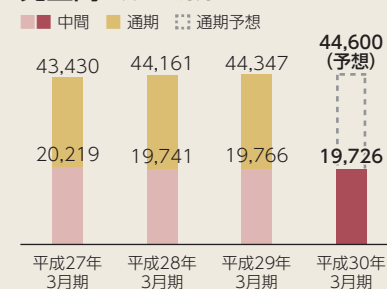
通期の見通しにつきましては、雇用・所得環境が改善し緩やかな景気回復基調にある一方で、内外の情勢による不安定な為替や株価動向などから個人消費、企業収益及び海外経済への影響懸念が残り、依然として厳しい経済環境が続くと予想されます。

通期の業績につきましては、売上高は446億円、営業利益は21億円、経常利益は21億60百万円、当期純利益は11億80百万円とする計画であります。

財務ハイライト

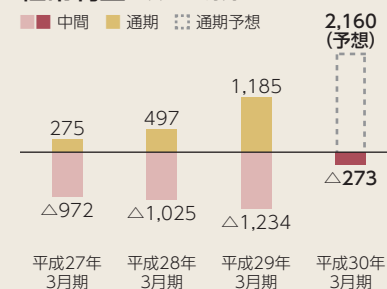
売上高

単位：百万円



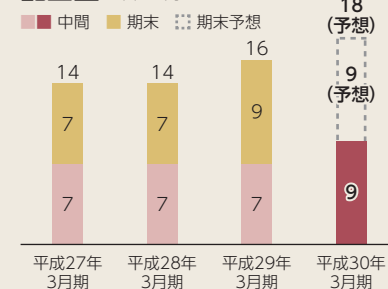
経常利益

単位：百万円



配当金

単位：円



当中間期の主な取り組み

特別メニュー『黒豚しゃぶしゃぶ』の販売

しゃぶしゃぶと日本料理の木曽路では、4月から10月まで「鹿児島黒豚しゃぶしゃぶ」を初の全国規模（一部店舗除く）で期間限定販売いたしました。

豊かな旨味ときめ細かい肉質が特徴の鹿児島県産黒豚「黒の匠」を、鮪節と昆布を合わせた木曽路オリジナルの黄金出汁でいただきます。新規顧客の獲得を目的として木曽路初の「黒豚しゃぶしゃぶ」を提案いたしました。



『秋の収穫祭』の開催

しゃぶしゃぶと日本料理の木曽路では、秋の「収穫祭」を8月から10月まで、全国118店舗で開催いたしました。秋を代表する「松茸・栗・新銀杏」などを使ったオススメ品の他、脂の乗った「戻り鰹の豪快盛り」や木曽路自慢の和牛と朴葉味噌を使用した「和牛と茸の朴葉焼き」など、厳選した秋の素材を活かした、さまざまな一品料理を販売。「実りの秋」を感じて頂く木曽路ならではの「収穫祭」はこの時期初の特別企画となりました。



『北の幸まつり』の開催

しゃぶしゃぶと日本料理の木曽路では、「北の幸まつり」を5月から7月まで、全国118店舗で開催いたしました。

北の幸を代表する「毛がに」や「ぼたん海老」、「帆立」、「うに」など、北の海から届く厳選素材を使用した、さまざまな一品料理を販売。昨年も、多くのお客様より大変ご好評をいただいたこの企画を更に磨き上げてお届けいたしました。



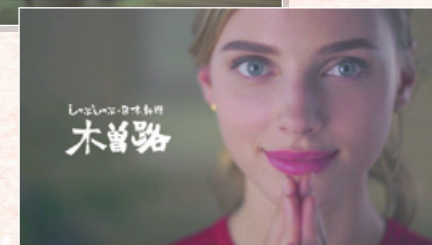
働き方改革の推進

長時間労働の抑制などを目的とした政府主導の「働き方改革」は、経営の重要課題のひとつと捉えています。営業時間短縮による労働時間の削減、自動釣銭機やインターカムシステムの導入など機械化・IT化の促進による業務の合理化・効率化により、ワーク・ライフ・バランスの実現や生産性向上への取り組みを行っています。今後も引き続き、社員一人ひとりがやりがいをもって働くことのできる人事制度づくりや働く環境の整備に取り組んでまいります。

トピックス

25年ぶりにTVCMを刷新、10月6日より全国で放映開始

新CMのテーマは「日本の美しい時間」です。祝事をはじめとする、これまで粛々と継承してきた日本伝統文化を、外国人の目線を通して描いています。「美味しいしゃぶしゃぶを心地良い空間で楽しんで頂き、いつもとは違う少し贅沢な時間を過ごしていただきたい」、そんな木曽路のブランドプロミスを新CMで表現しています。



おせち料理販売のご案内

今年もおせち料理をご用意いたします。

新年（平成30年）の門出にふさわしく、海・山の幸をふんだんに使い職人が腕によりをかけひとつひとつ丹精込めて創りあげた食の芸術品。

木曽路自慢の逸品をぜひご賞味くださいませ。



※イメージ写真

詳細は、各店舗又は当社ホームページでご確認ください。

数に限りがございますので、お申し込みはお早めをお願いいたします。

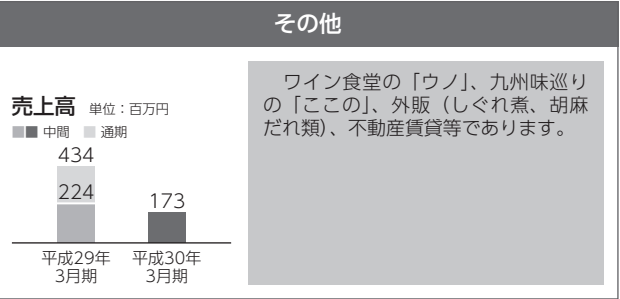
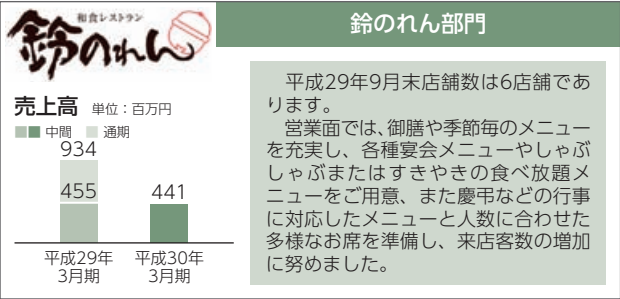
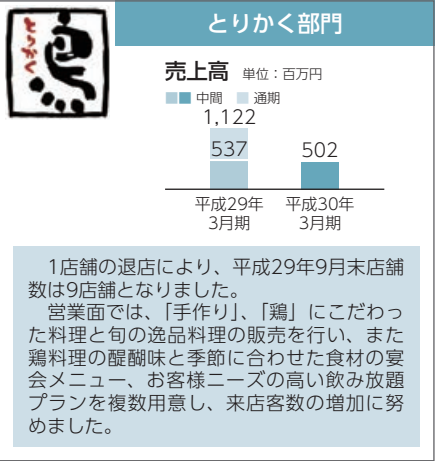
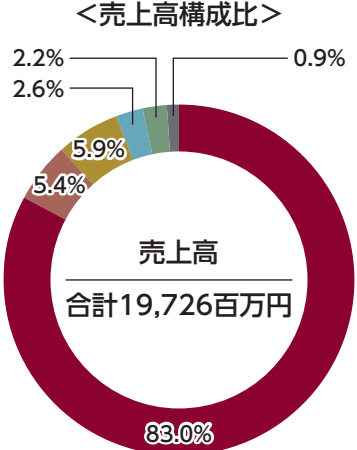
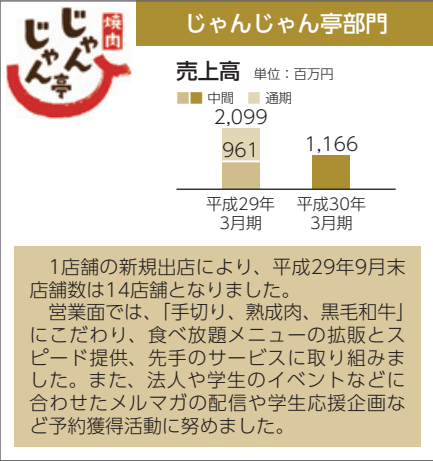
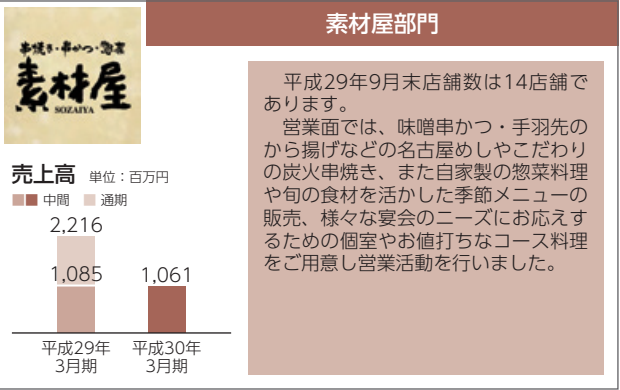
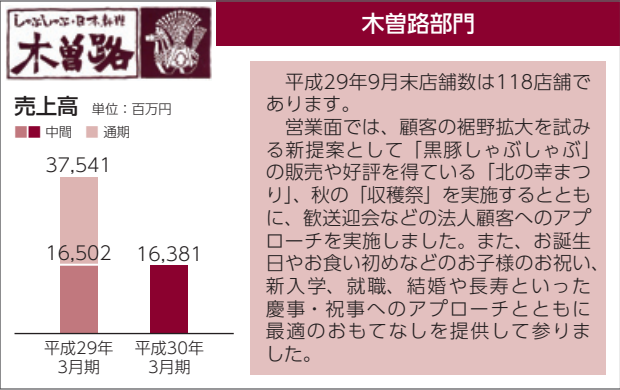
AED（自動体外式除細動器）設置

平成29年7月、救命救急のために使用される医療機器のAED（自動体外式除細動器）を全国の店舗（しゃぶしゃぶと日本料理の木曽路）、本社及び名古屋工場へ設置導入いたしました。店舗へのAED設置はご来店され

たお客様が安心してお食事を楽しんで頂くことに留まらず、地域社会への貢献にも資すると考えています。



部門別の概況



財務諸表

貸借対照表（要旨） 単位：百万円

科目	当第2四半期末 (平成29年9月30日)	前期末 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産	15,928	16,629
固定資産	21,027	21,103
有形固定資産	12,940	13,161
無形固定資産	112	120
投資その他の資産	7,974	7,821
資産合計	36,955	37,732
負債の部		
流動負債	5,562	5,945
固定負債	2,952	2,919
負債合計	8,514	8,864
純資産の部		
株主資本	28,095	28,585
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	8,286	8,775
自己株式	△123	△122
評価・換算差額等	345	283
純資産合計	28,440	28,868
負債純資産合計	36,955	37,732

POINT 貸借対照表

総資産は、主に現金及び預金、たな卸資産が減少しました。
負債は、主に買掛金及び未払法人税等が減少しました。
純資産は、四半期純損失の計上、剰余金の配当により減少しました。
以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は77.0%、1株当たり純資産は1,100.87円となりました。

損益計算書（要旨） 単位：百万円

科目	当第2四半期累計 (平成29年4月1日～ 平成29年9月30日)	前第2四半期累計 (平成28年4月1日～ 平成28年9月30日)
売上高	19,726	19,766
売上原価	6,322	6,681
売上総利益	13,404	13,085
販売費及び一般管理費	13,711	14,356
営業損失（△）	△307	△1,270
営業外収益	42	44
営業外費用	9	8
経常損失（△）	△273	△1,234
特別利益	－	202
特別損失	9	30
税引前四半期純損失（△）	△283	△1,062
法人税等合計	△27	△279
四半期純損失（△）	△256	△783

キャッシュ・フロー計算書（要旨） 単位：百万円

科目	当第2四半期累計 (平成29年4月1日～ 平成29年9月30日)	前第2四半期累計 (平成28年4月1日～ 平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	347	△1,696
投資活動によるキャッシュ・フロー	△377	△436
財務活動によるキャッシュ・フロー	△287	△230
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△317	△2,364
現金及び現金同等物の期首残高	13,727	13,403
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,410	11,038

POINT キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは、流入超過となりました。
投資活動によるキャッシュ・フローは、主に新規出店・改装等による投資、投資有価証券の取得及び定期預金の解約等により流出超過となりました。
財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等で流出超過となりました。